

**カミツケ(ウ科)**  
全身黒色、頭は黄褐色その外側は白。成鳥は頭部に白羽が混じる。  
本州北部の海岸の別擗や奥地で繁殖。各は全國の海上につき出た岩などに集まってねぐらす。  
飛ぶ姿は、ビーリー羽に羽がほんとうな形、  
カルルーン、グルルーンなどどうなるようない  
声や、グワーンなどと鳴く。

**カワセミ(カワセミ科)**  
体の割合に大きい大きなくちばしを持ち、水辺で小魚を捕えて生活する。上面は美しいコバルト色、頭や翼の一部は緑色。のどは白いが胸や腹の上部は鮮かな赤紫色。飛びながらツイーンといふ声。10年ほど前までは、平地や低山地の河や小川、沼、池など、どこの水辺にもいたが、最近はどんどん減っている。

愛鳥の心が育てる  
よい環境

50

この夏、釣りブームのかげで考えていたことがあります。

秩序ある正しい釣のマナーの確立を

1500万から1800万といわれる日本の釣人口。自然に親しめる趣味として、釣は楽しく、釣った魚はおかずになるオマケもありますが、やはり、自然物としての魚の生命を奪うのですから、それなりの心がけが必要です。欧米では高い料金で許可を取り、釣った魚でも一定の大きさ以下は逃がすなど、規則も、それに従う釣師のマナーも厳しいものがあるとされています。

では、日本はどうでしょうか。立派なマナーを持つ釣師の方には申しわけありませんが、魚に対するだけでなく、海岸、川岸、湖畔といった自然をひどく痛めつける釣師が多いこともたしかです。

第一にゴ。最近はゴマセといって、魚を寄せるためやたらにエサをまくので、岸辺や近くの水が汚れ、水中の栄養バランスがくずれています。また、残ったエサや紙クズ、弁当のからなどが捨てられるので、腐って悪臭を放ち、散々に汚されます。いっぽう磯釣りでは、海中の岩で網を切ることによくあり、大物が釣れるポイントの海中には、切れた糸が東になってゆれています。次に不思議に思うのは、釣った魚を持ち帰らない人、フグのような魚を海へ返さずに放置して殺してしまう人です。これでは単なる殺生にすぎないとはありません。

特に私たちがおそれるのは、小さな島や橋に棲む海鳥の繁殖期にそそぐった釣師たちが、野鳥保護の考えなしに歩きまわったり、夜釣りのために火を燃やしたりして鳥たちをおひやかした結果、繁殖に非常な悪影響を及ぼしていることです。天然記念物に指定された鳥がいて、有刺鉄線が張られているところに入り込む釣師もいます。川の例ではカワセミの巣の前に釣師がいるため、親鳥がヒナにエサを運べないでいた、という報告もありました。——秩序ある正しい釣のマナーの確立と野鳥の繁殖地を荒らす釣師の規制を、釣好きの皆さん一人一人が考えてくださいませんか。

ヒトリの心中  
「ヒトリの保護区」

財団法人 日本鳥類保護連盟  
サンタリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サンタリー株式会社がシリーズとして制作するものです。

モズの高鳴きをききましたか?  
秋の使者、モズが南下をはじめます。梢で尾を振りながら大きな声で鳴きます。

●シカやカボチャのタネは捨てないで——  
カボチャにしててあまいよう。冬の果のシユウカラのエサにします。

ヒライガニ

●シギ、チドリの巣り一中話を過ぎると、北国で繁殖を終えた波打が、そろそろ湖をにぎやかにしています。

●夜の声  
キアシギ、イソシギ、ムナグロなどの声が夜空からこえています。大声でキュウキュウと鳴くのは「カ」かな?

●秋の山の鳴きはじめ  
6~7月から鳴き出すキリギリス、ヤブキリは別として、8月に入ると本州中あたりではシンマコオロギ、カヌタキ、カシラなど、それにツツツツボウやチツチゼミなども。

●麗いさがりに聞く花には、いま、きれいなアゲハチョウの仲間がやって来ていますよ。

●湖や池へ出かけたら、ゴミや葉へ残渣を捨てないように!